

# 韓國日本語學會ニュースレター

## [2024-2]



発行人: 郭銀心 / 編集人: 宋淑正 / 発行所: 韓国日本語學會 / 発行日: 2024.8.31

ご挨拶	1
役員名簿	2
常任理事会	7
会員情報	8
学術大会開催案内	10
連携協力研究会活動報告	18
編集委員会	24
『日本語学研究』論文投稿案内	27
「365 One Stop 論文投稿システム」	33
学会ホームページ案内	34

事務局 〒06974 Seoul市 銅雀區 黒石路 84 中央大學校 303館 1332號

郭銀心 教授 研究室

 <http://www.jlak.or.kr>

E-mail [jlak123@naver.com](mailto:jlak123@naver.com)

(研究編集事務局長: 金知垠)

(學術事業企劃事務局長: 李宣和)

(教育広報事務局長: 長島倫子)

## ご挨拶

韓国日本語学会会員の皆様

韓国日本語学会第 13 代研究副会長を務めております韓国外語大学の文彰鶴でございます。このほか蒸し暑かった夏が過ぎ、いつの間にか 9 月になり新学期が始まりました。学期初めで何かとお忙しいことと存じますが健康第一でお過ごしください。

現在私たちは AI 技術の目覚ましい発展を目の当たりにし、今後世の中がどのように変わるのかについて大いに期待する一方で、不安もまた片隅に抱いています。各界の分野においては、AI 技術の発展とともに急変する環境の中で未来へと進むその方向や方法を模索するために多大な関心をもって不断の努力を注いでいます。同様に、日本語学の研究と日本語教育においても新たな変化を図るために活発な議論と試みが必要な時期であると思います。

今回の国際学術発表大会は、「日本語文法研究の新たなパラダイム」というテーマで日本語文法研究に焦点を合わせて新たに進む方向や方法を模索すべく、招請講演、企画発表、招請発表、一般発表で構成いたしました。

招請講演は広島大学の白川博之先生をお迎えし、「日本語文法研究と日本語教育研究の相互交渉—「閉塞状態」の打開に向けて—」というテーマのもと、現在停滞感がある日本語文法研究の現状についてお話しいただくとともに、これを打開する方法として日本語教育との連携可能性についての貴重なご提言をいただきます。そして、「コミュニケーションと日本語教育」と「日本語韓国語中国語の語順・ことばの並べ方にみるジェンダー」という 2 つのテーマの企画発表では、日本語文法研究とともに対照研究及び日本語教育との連携可能性についての具体的なテーマと方法論をうかがい知ることができる機会となることが期待されます。また、招請発表と一般発表ではこれまで熟考を重ねて分析して来られた研究成果の発表がございます。今回の学術大会は、招請講演をはじめとした様々な発表を通じて、日本語学と日本語教育において皆が抱えてきた悩みを共有し、解決策を共に模索することができる場となることと信じております。

学期初めで大変お忙しいことと存じますが、多くの会員の皆様にご参加いただき、様々な変化が求められる現在の状況の中でも日本語学と日本語教育の未来のために揺るがず守っていかねばならない普遍的な価値とは何であり、変化しなければならない部分は何であるのかについて共に悩み、考えを分かち合うことができる学術交流の場となりますことを願っております。

韓国日本語学会 研究副会長 文彰鶴

# 役員名簿

## ■常任理事

役職		氏名	所属
會長		郭銀心	中央大學校
副會長	研究	文彰鶴	韓國外國語大學校
	編輯	李恩美	明知大學校
	學術	朴孝庚	漢陽サイバー大學校
	教育弘報	李舜炯	慶北大學校
總務理事	研究編輯	鄭賢兒	西京大學校
	學術事業企劃	崔眞姬	白石大學校
	教育弘報	中村有里	仁川大學校
財務理事		殷守希	淑明女子大學校
評價理事		梁乃允	中央大學校
學術理事		金義泳	國立ハンバツ大學校
		張允娥	國立釜慶大學校
		趙恩英	釜山外國語大學校
		白以然	ソウル科學技術大學校
編輯理事		伊藤貴雄	弘益大學校
		崔惠貞	カトリック大學校
		全紫蓮	慶尚國立大學校
		金惠娟	聖潔大學校
		金修卿	韓國外國語大學校
出版理事		高恩淑	韓國外國語大學校
情報理事		金鍾完	江原大學校
弘報理事		宋淑正	中央大學校
國際交流理事	日本	金智賢	宮崎大学
		朴秀娟	神戸大学
		尹智鉉	中央大学
		鄭惠先	北海道大学

	中國	李宣和	中央大學校
		全永男	延邊大学
		母育新	西安外国語大学
		盛文忠	上海外国語大学
	臺灣	羅曉勤	台中科技大學
	オーストラリア	Lee,Duck-Yong	The Australian National Univ.
對外協力理事	ソウル	金廷珉	高麗大學校
	京畿	方允炯	水原大學校
	江原	高慧禎	カトリック關東大學校
	忠北	李忠奎	西原大學校
	忠南	金玄珠	國立ハンバツ大學校
	慶北	李慈鎬	慶北大學校
	慶南	河在必	釜山大學校
	全南	權城	木浦大學校
	濟州	孫榮奭	濟州大學校
	日本	金照雄	時事日本語社
事業企劃理事		宋殷美	白石藝術大學校
事務局長	研究編輯	金知垠	カトリック大學校
	學術事業企劃	李宣和	中央大學校
	教育弘報	長島倫子	建國大學校
監事		南得鉉	明知專門大學
		梁敏鎬	國立釜慶大學校
編集委員長		李竣瑞	聖潔大學校

■一般理事（国内：가나다順，海外：五十音順）

国内		
權寧成(清州大學校)	琴鍾愛(忠南大學校)	岸本まりこ(國立釜慶大學校)
金光成(中央大學校)	金光泰(韓瑞大學校)	金善姬(水原大學校)
金英兒(韓南大學校)	金楨憲(三育大學校)	野田高広(韓國外國語大學校)
沼田浩通(南ソウル大學校)	閔丞希(中源大學校)	朴江訓(仁荷大學校)
朴京愛(建國大學校)	朴善玉(大眞大學校)	朴良順(蔚山科學大學校)
佐々紘子 (サイバー韓國外國語大學校)	佐藤揚子 (明知大學校)	孫範基 (濟州大學校)
宋惠仙(仁德大學校)	申義植(京畿大學校)	脇山尚子(東元大學校)
尹榮珉(延世大學校)	李東郁(漢陽女子大學校)	李粹昂(嘉泉大學校)
李羽濟(白石藝術大學校)	李玟兒(新羅大學校)	飯干和也(祥明大學校)
林禎映(全南大學校)	張良光(カトリック大學校)	趙宣映(仁川大學校)
玄仙令(京畿大學校)		
海外		
新井保裕(文教学院大学)	磯野英治(名古屋商科大学)	市島佑起子(鹿児島大学)
今村圭介(東京海洋大学)	大塚薫(高知大学)	奥野由紀子(東京都立大学)
生越直樹(東京大学)	吳泰均(札幌国際大学)	河崎啓剛(東京大学)
金庚芬(明星大学)	金菊熙(松山大学)	金蘭美(横浜国立大学)
甲賀真広(名古屋商科大学)	小口悠紀子(広島大学大学院)	斎藤敬太(跡見学園女子大学)
齊藤良子(国士舘大学)	趙惠真(札幌国際大学)	丁仁京(佐賀女子短期大学)
高木丈也(慶応義塾大学)	ダニエル・ロング (東京都立大学)	中井精一(同志社女子大学)
永原歩(東京女子大学)	早矢仕智子 (宮城学院女子大学)	藤本かおる(武蔵野大学)
幸松英恵(東京外国語大学)	陸心芬(南山大学)	尹盛熙(関西学院大学)
吉田さち(跡見学園女子大学)		

## ■編集委員会

職責	氏名	所属
編集委員長	李峻瑞	聖潔大學校
編集理事	伊藤貴雄	弘益大學校
	崔惠貞	カトリック大學校
	全紫蓮	慶尚国立大學校
	金惠娟	聖潔大學校
	金修卿	韓國外國語大學校

音声学 音韻論	閔光準(建國大學校) 宇都木昭(名古屋大学/日本) 李連珠(北海道大学/日本) 李承英(光云大學校) 孫範基(濟州大學校) *高慧禎(カトリック關東大學校)	語用論 社会言語学	琴鍾愛(忠南大學校) 金庚芬(明星大学/日本) 鄭惠先(北海道大学/日本) 吉田さち(跡見学園女子大学/日本) 梁敏鎬(国立釜慶大學校) 李恩美(明知大學校) *鄭賢兇(西京大學校)
統辞論 形態論	裴銀貞(釜山外國語大學校) 金廷珉(高麗大學校) 竹沢幸一(筑波大学/日本) 李徳泳(The Australian National Univ./濠洲) *朴江訓(仁荷大學校)	日本語教育	石井恵理子(東京女子大学/日本) 趙宣映(仁川大學校) 辛銀眞(仁川大學校) 李奎台(東京外国語大学/日本) 角ゆりか(明知大學校) *曹英南(高麗大學校)
意味論 語彙論	姜兪完(大邱カトリック大學校) 金愛蘭(日本大学/日本) 李慈鎬(慶北大學校) 塩田雄大(NHK放送文化研究所/日本) 孫栄奭(濟州大學校) 宋永彬(梨花女子大學校) *張元哉(啓明大學校)	日本語史	吳美寧(崇實大學校) 羅工洙(嶺南大學校) 林禎映(全南大學校) 朴善玉(大眞大學校) *朴孝庚(漢陽サイバー大學校)
その他 日本語学	檢校裕朗(極東大學校) 中村有里(仁川大學校) 李朱利愛(梨花女子大學校) 盛文忠(上海外国語大学/中国) 李忠奎(西原大學校) 李東哲(山東省外事職業大学/中国) 全永男(延邊大学/中国) *李舜炯(慶北大學校)	◆「*」は、実務担当編集委員(実務委員) そのほかは審査担当編集委員(査読委員)である	

■ 監事

職責	氏名	所属
監事	南得鉉	明知専門大學
	梁敏鎬	國立釜慶大學校

■ 研究倫理委員会

委員長	非公開
委員	非公開

■ 学術研究発展委員会

委員長	吳玟定 (建國大)
委員	辛銀眞 (仁川大)、朴京愛 (建國大)、崔惠貞 (カトリック大)、金義泳 (國立ハンバツ大)

■ 学術誌発展委員会

委員長	李恩美 (明知大)
委員	高慧禎 (カトリック關東大)、姜錫祐 (カトリック大)、文彰鶴 (韓國外大)、鄭相美 (新羅大)、梁敏鎬 (國立釜慶大)

■ 日本語教育発展委員会

委員長	李舜炯 (慶北大)
委員	金志宣 (梨花女子大)、川口慶子 (崇實大)、小島堅嗣 (培材大)、中村有里 (仁川大)、持田祐美子 (Lapu-Lapu Cebu International College)、迫田亜希子 (明知大)

■ 学会発展基金委員会

委員長	李竣瑞 (聖潔大)
委員	高慧禎 (カトリック關東大)、金惠娟 (聖潔大)、南得鉉 (明知専門大)、檢校裕朗 (極東大)

■ 学術賞選定委員会

委員長	李暻洙 (韓國放送通信大)
委員	姜錫祐 (カトリック大)、高慧禎 (カトリック關東大)、李恩美 (明知大)、曹英南 (高麗大)

■ 諮問委員会

監事	盧姪鉉 (徳成女子大)
委員	姜錫祐 (カトリック大)、康仁善 (聖公會大)、金玉任 (誠信女子大)、盧明姬 (東國大)、閔光準 (建國大)、朴海煥 (淑明女子大)、李暻洙 (韓國放送通信大)、李範錫 (カトリック大)、李漢燮 (高麗大)、尹幸舜 (國立ハンバツ大)、鄭相哲 (韓國外國語大)、洪珉杓 (啓明大)、黃永熙 (漢陽サイバー大)

# 常任理事会

## ■ 第3回 常任理事会

(2024年8月19日(土) 20時、リアルタイムオンライン(Zoom) 会議ID:849 4382 4420)

### 1. 会長挨拶

### 2. 伝達事項

- (1) 姉妹学会についてのお知らせ
- (2) 会長団会議の報告(8月11日実施)

### 3. 各分科による報告・議題

#### (1) 学術/事業企画

- ① 国際交流基金からの助成金交付決定
- ② 学術大会のプログラム(案)についての報告: 計11つの発表場(一般発表: 22件、企画発表: 2チーム(日韓コミュニケーション研究会/ジェンダー研究)、姉妹学会の招請発表: 台湾2名、中国2名(4件の発表))
- ③ 討論者及び司会者の依頼  
-以下 4. 特別案件にて報告

#### (2) 編集

- ① 編集委員会からの報告: 『日本語学研究』第81輯(2024年9月30日発行予定) 計16編(招請論文1編、一般論文13編、特集論文2編)

#### (3) 情報

- ① nurimedia による学会ホームページビルダー無償交換のための移管作業  
8月26日に会員PWが初期化される(ポップアップで案内する予定)
- ② nurimedia /DBpia 著作権再契約(8月19日締結/2025年~2030年)

#### (4) 広報

ニュースレター(2024-2)準備

### 4. 特別案件: 第50回国際学術大会準備

### 5. その他

次回の理事会の日程: 2024年9月13日(金)予定

### 6. 閉会挨拶

## 会員情報

### ○ 学位取得

◆ 中村有里 会員

仁荷大学校大学院 日語日本学科 文学博士学位取得

### ○ 任用および転任

◆ 李忠奎 会員

任用(済州大学校 人文大学 日語日文学科 助教授)

### ○ 姉妹学会への招請発表者派遣

◆ 8月17日(土)~8月18日(日)に中日対照言語学研究会が上海建橋大学にて「2024年 中日比較言語学シンポジウム」を開催

- 李宣和国際交流理事を招請発表者として派遣



## ○ 事務局

〒06974

Seoul市 銅雀區 黒石路 84

中央大學校 303館 1332號

郭銀心 教授 研究室

 <http://www.jlak.or.kr>

(研究編集事務局長：金知垠)

(學術事業企劃事務局長：李宣和)

(教育広報事務局長：長島倫子)

✉ [jlak123@naver.com](mailto:jlak123@naver.com)

- 審査料及び掲載料の納付先

국민은행(kookmin Bank) 014301-00-002268

은수희(한국일본어학회) 殷守希 (韓國日本語学会)

個人会員の場合は学会運営の関係上、郵送料をいただいております。学会誌の発送をご希望の方は事務局までご連絡くださいますようお願いいたします。学会誌に掲載された論文は創刊号から最新号まで学会ホームページの[学会誌](#)よりダウンロードできますのでご利用ください。

# 韓國日本語學會 第50回 國際學術發表大會

## < 主題 >

日本語文法研究の新しいパラダイム

## < 基調講演 >

日本語文法研究と日本語教育研究の相互交渉  
— 「閉塞状態」の打開に向けて—  
白川博之(広島大学名誉教授)

- ・日時：2024年 9月 28日(土)
- ・場所：中央大學校
- ・主催：韓國日本語學會, 中央大學校 日本研究所,  
中央大學校大學院 日語日文學科
- ・主管：韓國日本語學會
- ・後援：JAPAN FOUNDATION  SEOUL, (株)時事Books



韓國日本語學會  
The Japanese Language Association of Korea

# 韓國日本語學會

## 第50回 國際學術發表大會

■ 日時：2024年 9月 28日(土)

■ 場所：中央大學校

### <Program>

10:30-12:30	▪ 一般發表	第1發表會場 第2發表會場 第3發表會場 第4發表會場 第5發表會場
12:30-13:40	休息	
13:40-14:00	▪ 開會式 開會辭：郭銀心(韓國日本語學會 會長) 祝 辭：十河俊輔(日本國際交流基金Seoul文化Center 所長)	<司會：崔眞姬(白石大)>
14:00-14:10	▪ 研究倫理教育 高恩淑(韓國外大)	<司會：崔眞姬(白石大)>
14:10-14:20	休息	
14:20-15:20	▪ 基調講演 白川博之(広島大)	<司會：李在鉉(慶南大)> <討論：文彰鶴(韓國外大)>
15:20-15:30	休息	
15:30-17:30	▪ 企劃發表及び 一般發表	第1發表會場 第2發表會場 第3發表會場 第4發表會場 第5發表會場 第6發表會場
17:40	懇親会	

**<研究倫理教育>**

**14:00-14:10**

司會: 崔眞姬(白石大)

연구자를 위한 연구윤리교육  
研究者のための研究倫理教育

**<基調講演>**

**14:20-15:20**

司會: 李在鉉(慶南大)

討論: 文彰鶴(韓國外大)

日本語文法研究と日本語教育研究の相互交渉  
—「閉塞状態」の打開に向けて—

白川博之  
(広島大)

## 第1発表会場

### 日本語の文法

座長: 李暎洙(韓国放送大)

時間	発表者	主題	発表言語	討論者	司會者
招請発表					
10:30 -11:10	周楊 (上海建橋学院)	「複合語」の漢日比較言語学的思考	日	方允炯 (水原大) 河在必 (釜山大)	宋殷美 (白石藝大)
11:10 -11:50	金昭希 (東京外国語大)	古典語のツとヌについて —上接動詞の史的変遷を中心に—	日	李粹曷 (嘉泉大) 朴善玉 (大真大)	朴孝庚 (漢陽cyber大)
11:50 -12:30	柳原恵津子 (国立国語研究所)	平安時代初期資料における「もし」と「若」	日	姜盛文 (高麗大) 文玄洙 (仁荷大)	河在必 (釜山大)

### 企画発表1: コミュニケーションと日本語教育

座長: 李範錫(Catholic大)

15:30 -17:30	持田祐美子 豊田辰仁 (Lapu lapu-Cebu International College)	ラプラセブ国際大学の例から見る 国際交流イベントの相互学習効果 —日本語関連行事に参加した学生への アンケート調査から—	日	伊藤貴雄 (弘益大)	伊藤貴雄 (弘益大)
	崔智恩 (筑波大)	友人同士3者間の意見交渉談話における ワキの聞き手の参与効果から見た ラポールマネジメント —日本語母語話者大学生と韓国語母語話者 大学生の会話データ分析から—	日	持田祐美子 (Lapu lapu-Cebu International College)	
	張良光 (Catholic大)	日本語ディベート授業から見る学習効果	日	渋谷雅円 (名古屋大)	

## 第2発表会場

### 日本語の音韻

座長: 李京哲(東國大)

時間	発表者	主題	発表言語	討論者	司會者
10:30 -11:10	黒木邦彦 (神戸松蔭女)	사쓰마 방언으로 보는 일본어의 역사 —(형태)음운론을 중심으로—	韓	權景愛 (韓國外大)	朴江訓 (仁荷大)

	子学院大)	(薩摩弁で見る日本語の歴史 —(形態)音韻論を中心に—)		孫範基 (濟州大)	
11:10 -11:50	安東妮 李京哲 (東國大)	聚分韻略 諸本에 걸친 果假攝의 字音形에 대하여 (聚分韻略諸本における 果假攝の字音形について)	韓	國生和美 (東國大) 楊宇 (東國大)	朴英淑 (水原科學大)
11:50 -12:30	趙大夏 (Seoul女大)	「月琴樂譜」의 近世唐音에 대하여 (「月琴樂譜」の近世唐音について)	韓	白惠英 (牧園大) 李相怡 (仁川大)	孫範基 (濟州大)

### ■ 企画発表2: 日本語韓国語中国語の語順・ことばの並べ方にみるジェンダー

座長:趙大夏(Seoul女大)

15:30 -17:30	遠藤織枝 (元 文教大)	日本語の語順と語の並べ方に見るジェンダー	日	沼田浩通 (南Seoul大)	辛銀眞 (仁川大)
	鄭相哲 (極東大)	日常で使われている単語の中の男女順の持つ 意味に関して —韓国の場合—	日	脇山尚子 (東元大)	
	任利 (東京農工大)	中国語の語順に潜むジェンダー・バイアス —「男女」「夫妻」「父母」を中心に—	日	白以然 (Seoul科技 大)	
	本田明子 (立命館アジア 太平洋大)	大学生のジェンダー意識に見る 日本語のジェンダーのこれから —大学生の意識調査から—	日	長島倫子 (建國大)	

## 第3発表会場

### ■ 談話分析と語用論

座長:盧姪鉉(徳成女大)

時間	発表者	主題	発表言語	討論者	司會者
10:30 -11:10	林千賀 (城西国際大) 岩田聖子 (大阪医科薬 科大)	台湾ホテルスタッフの日本語による 断りの談話分析 —意味公式の観点から—	日	趙宣映 (仁川大) 飯干和也 (祥明大)	成玟珂 (祥明大)
11:10 -11:50	呉泰均 (札幌国際大)	Z世代のLINEコミュニケーションにおける 句点「。」使用の語用論的意味	日	玄仙令 (京畿大) 迫田亜希子 (壇國大)	蔡永妊 (清州大)

▣ 社会言語学

座長: 黄永熙(漢陽Cyber大)

15:30 -16:10	都賢娥 (忠南大)	일본어 대칭사 선택과 연령과의 관계에 대하여 (日本語の対称詞の選択と年齢との関わりについて)	韓	金知垠 (Catholic大) 蔡侖周 (國立Hanbat大)	李恩美 (明知大)
16:10 -16:50	韓娥凜 (桃山学院大)	日本のヘイトスピーチにみられる差別の 再生産について —排外主義政治団体による街頭演説の事例を 中心に—	日	鄭賢兒 (西京大) 金修卿 (韓國外大)	申佼珍 (瑞逸大)
16:50 -17:30	西村綾夏 (フリー) 齋藤敬太 (跡見学園女子大)	禁止看板の対照分析 —日本・フィリピンの言語景觀を中心に—	日	孫朱彦 (高麗大) 梁敏鎬 (國立釜慶大)	李慈鎬 (慶北大)

第4發表會場

▣ 文法と日本語教育

座長: 李美淑(明知大)

時間	發表者	主題	發表言語	討論者	司會者
	招請發表				
10:30 -11:10	蘇鷹 (上海大)	言語産出からみる日本語関係節の 類型論的特徴	日	金廷珉 (高麗大) 金智媛 (泰齋大)	李宣和 (中央大)
11:10 -11:50	幸松英恵 (東京外国語大)	平叙のノダ文における話題の焦点 —スコープのノダとは何か—	日	崔瑞暎 (韓國外大) 崔眞姬 (白石大)	金廷珉 (高麗大)
11:50 -12:30	梁乃允 (中央大)	日本語学習者の従属節における ノダ使用様相について —KYコーパスの韓国語・英語・中国語 母語話者を中心に—	日	李舜炯 (慶北大) 野田高広 (韓國外大)	金楨憲 (韓國外大)

▣ 言語と文化

座長: 張根壽(祥明大)

15:30 -16:10	金庭香理 (札幌国際大)	留学生の社会参加活動による インターアクション —学生自身の振り返りを中心に—	日	崔鉉弼 (仁川大) 趙恩英 (釜山外大)	高橋美保 (韓國外大)
16:10	李竣瑞	한·일 소비자평 킷차마이닝	韓	曹英南	高恩淑

-16:50	金惠娟 (聖潔大)	—(주)T자동차의 트위터 X의 트윗을 중심으로— (韓日消費者評カルチャーマイニング —T自動車のX(ツイッター)を中心に—)		(高麗大) 貝明會 (韓國外大)	(韓國外大)
16:50 -17:30	趙惠真 (札幌國際大)	日本語字幕の翻訳に対する一考察 —韓国ドラマ『ソングジェ背負って走れ』の 文化要素を中心に—	日	崔少榮 (韓國外大) 梁乃允 (中央大)	南슬기 (韓國外大)

## 第5發表會場

### ▣ 日本語教育 1

座長: 檢校裕朗(極東大)

時間	發表者	主題	發表言語	討論者	司會者
招請發表					
10:30 -11:10	林玉惠 (輔仁大)	台湾の世界遺産候補地をテーマにした 日本語学習者の語彙拡張	日	寺田庸平 (弘益大) 李羽濟 (白石藝大)	朴在炯 (全州大)
招請發表					
11:10 -11:50	劉怡伶 (東吳大)	テキストマイニングの技術を取り入れた キャプション授業	日	工藤恵利子 (培花女大) 金容美 (韓國外大)	金玄珠 (國立Hanbat大)
11:50 -12:30	朴主言 (漢陽大)	ITPA言語学習能力検査における日本語学習者 の誤答分析 —韓国語母語話者を対象に—	日	申佼珍 (瑞逸大) 安田佳奈枝 (國立Hanbat大)	李賢珍 (龍仁大)

### ▣ 日本語教育 2

座長: 金光泰(韓瑞大)

15:30 -16:10	許明子 (名古屋大)	韓国人日本語学習者の話題選択と 会話展開の可視化 —初対面の日本語母語話者との雑談における 話題選択の分析を通して—	日	宋美娟 (國立Hanbat大) 申恩淨 (江原大)	宋淑正 (中央大)
16:10 -16:50	井口恵菜 (江原大)	日本語学習における語の機能の習得環境 —多義語「ましよう(か)」を例として—	日	朱仁媛 (大田大) 大田祥江 (國際交流基金 ソウル日本文 化センター)	小松奈々 (高麗大)
16:50 -17:30	恒吉美帆子 (慶北大)	韓国人日本語学習者の聞き取り能力に 関する考察	日	中村有里 (仁川大)	殷守希 (淑明女大)

		一文単位の調査から		阿部友加里 (中央大)	
--	--	-----------	--	----------------	--

## 第6発表会場

### 日本語の方言

座長: 朴才煥(京畿大)

15:30 -16:10	斎藤敬太 (跡見学園女子大)	言語景観を通じた北海道の方言環境	日	鄭惠先 (北海道大) 黒木邦彦 (神戸松蔭女子学院大)	李舜炯 (慶北大)
16:10 -16:50	市島佑起子 (鹿児島大)	日本語上級学習者と地域方言学習 —留学生の日本定着を目指す社会動向と ことばを通じた学び—	日	李在鉉 (慶南大) 伊藤沙智子 (韓国外大)	鄭惠先 (北海道大)

# 連携協力研究会活動報告

## 韓国継承日本語教育研究会

### ◆第37回 定例会 「和菓子で祝おう 10周年～ネットワークのみんな集まれ～」開催

日時：2024年3月9日（土） 場所：ハナ銀行タリン多文化センター

内容：和菓子職人の先生をお招きし、先生のご指導のもと実際に桜餅と練り切りを作り、皆様でお抹茶と一緒に頂きました。また、会長の櫻井が研究会発足から10年の振り返りを行いました。

### ◆第38回 定例会 「海外でことばを育てる 就学前を中心に～バイリンガル・マルチリンガル教育の視点から～」開催

日時：2024年6月6日（木） 祝日 場所：オンライン（Zoom）

内容：米国イースタンミシガン大学 世界言語学部教授 桶谷仁美先生をお招きして、家庭におけるバイリンガル教育についてお話をいただきました。

### ◆韓国における継承日本語教育に関するパンフレット作成及び設置

内容：家庭でどのようにバイリンガル教育を進めていけばよいかという観点からパンフレットを作成し、国際交流基金様のご協力を得て、在韓国日本大使館へ設置をしていただきました。韓国にお住いの日韓家族が大使館へ出生届を提出に来られた時に目に付くよう、そして、赤ちゃんのときからご家庭でバイリンガル教育に取り組んでいただけることを目指した活動です。



### ◆夏の勉強会 開催

日時：2024年7月24日から8月28日まで毎週水曜日 夜8:00~9:30

場所：オンライン（Zoom）

内容：この夏は『トランスランゲージング・クラスルーム』を教材に約15名ほどで勉強会を開催しています。

当研究会のホームページ、Instagramにその他の活動や継承語教育についての情報を掲載しております。

活動にご興味をお持ちの方は、ぜひ、ご覧ください。

公式サイト <http://krkrishougo.net> Instagram @krkeisyougo

## 📄 韓国共同実践研究会 📄

韓国協働実践研究会は、2010年に日本協働実践研究会の各国プラットフォームの一つとして立ち上げられました。本研究会では、韓国の日本語教育において協働の考え方に基づく授業実践・研究を進めていくことを目指し、1、2ヶ月ごとの定例会でそれぞれの授業実践を報告し、コメントし合う活動を行ってきました。

今回の定例会では、「AIを活用した日本語授業の共有・提案」についてご報告と質疑応答が行われました。

### ◆定例会（オンライン）

関陽子 「AIを共有しましょう」（2024.4.7）

日本語教育の現場で役立つAIの機能や使い方などを紹介してもらい、感想や意見を話し合いました。次回は、メンバーそれぞれのAIを活用した授業デザインや資料づくりについて話し合う予定です。



\*協働学習の実践・研究に興味のある方は、以下の日本協働実践研究会のホームページをご参照ください。

日本協働実践研究会HP <http://kyodo-jissen-kenkyukai.com/>

## □ 韓国OPI研究会 □

韓国 OPI 研究会では、OPI(Oral Proficiency Interview：全米外国語教育協会(ACTFL)が開発した口頭能力を測るためのインタビュー方式のテスト)に関する知識やインタビュー方法などを知り、教育や研究に活かすことを目的とした活動を続けています。今回は第1回と第2回の定例会、そして研究プロジェクトについて報告いたします。

### ◆第1回定例会

第1回定例会(3月26日)は、対面とオンライン(ZOOM)のハイブリッドで行われました。この回は主に2つの内容で実施されました。1)毎回行っている活動で、収録されたOPI音声を聞いたのち、3つのグループに分かれてレベル判定の話し合いを行いました。グループ毎の発表ではレベル判定とその根拠とともに、インタビューの構成の仕方に関する助言も多くあり、参加者全員にとって役立つ内容となりました。2)孫朱彦(ソンジュオン)先生の研究発表がありました。孫先生が博士課程で研究されている「医師のコミュニケーション方法の日韓比較」という興味深いものでした。日本の医者が患者との相互のやりとりの中で治療を進めていく傾向が強いのに対し、韓国の医師はリーダーシップを発揮しながら治療を進める傾向が強いとのことでした。

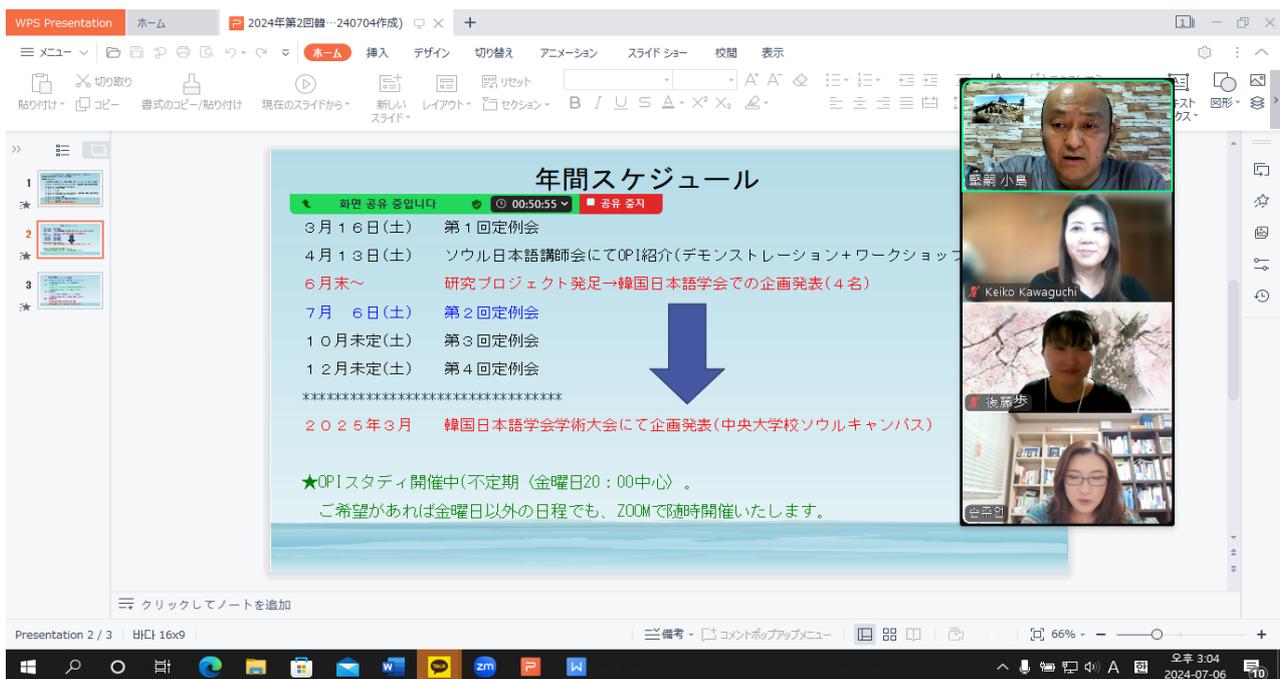
### ◆第2回定例会

第2回定例会(7月6日)は、オンライン(ZOOM)のみで行われました。この回はライブ(生中継)での2つのOPIデモンストレーションをおこない、デモンストレーション直後にそれぞれ3つのグループで話し合っレベル判定とインタビュー構成について評価するという内容で行いました。その結果、1)1つめのデモンストレーション(テスター：小島)ではレベルは初級-上という判定でほぼ一致しました。インタビュー構成については導入→レベルチェック→突き上げ→ロールプレーの形はできていたが、レベルチェックと突き上げの質問をもっと丁寧に繰り返し行う必要があるとの指摘がありました。2)2つめのデモンストレーション(テスター：後藤先生)ではレベルは中級-下という判定でほぼ一致しました。こちらのインタビューは丁寧に質問を行った結果、インタビューの受験者の発話を効果的に抽出することができていたという指摘がありました。今回のようなインタビューを行ったり、聞いて評価することはOPIテスターの技術向上にとって必要なことであると改めて実感しました。

### ◆研究プロジェクト

本研究会では、2025年3月に開催予定の韓国日本語学会の学術大会における企画発表をさせていただくことになりました。そのため企画発表をする4名を選定し、6月末以降からスタディという形で発表準備を進めています。来年良い発表ができればと思います。発表の機会をくださった韓国日本語学会に感謝いたします。

韓国 OPI 研究会ではこのような定例会や研究プロジェクトのほかに、スタディやワークショップ等も行っています。これらの情報はホームページと Facebook でも発信しておりますので、最下段に示したアドレスをご参照いただければ幸いです。またご不明な点があれば、いつでも研究会のメールアドレス宛にご連絡いただければと思います。



(第2回定例会の様子)

韓国 OPI 研究会メールアドレス：[kankokuopi@gmail.com](mailto:kankokuopi@gmail.com)

韓国 OPI 研究会ホームページ：<http://opik.da-te.jp/>

[韓国 opi 研究会 | Facebook](#)

AIとクリエイティブ・ラーニング研究会 (AI-CL)  
(Association for AI and Creative Learning)

◆第5回研究会 (国際学術講演会および学術会議)

日時：2024年6月15日(土)

主題：AI時代の言語能力を考える

共催：淡江大学村上春樹研究センター

後援：JAPAN FOUNDATION

SEOUL・韓国日本学会・韓国日本語学会・韓国日語教育学会・韓国日本語教育ネットワーク (NET-JEK)・台湾日語教育学会

第1部 国際学術講演会

<開会式> [司会：李朱利愛 (梨花女大)]

開会の辞：検校裕朗 (極東大/ AIとクリエイティブ・ラーニング研究会 会長)

祝 辞：十河俊輔 (国際交流基金ソウル日本文化センター 所長)・李志炯 (淑明女大/ 韓国日本学会 会長)・郭銀心 (中央大/ 韓国日本語学会 会長)

基調講演：李在鎬(早稲田大学日本語教育研究科 教授) 「AI時代の言語能力観」  
主題講演：青山玲二郎(香港中文大学) 「AI時代における日本語教育の商品化」 [司会：諏訪昭宏(釜山外大)]

## 第2部 学術会議

企画発表1：[司会：朴江訓(仁荷大)、討論：金廷珉(高麗大)]

尹楨勛(釜山外大) 「日本語教育におけるPSC基盤のChatGPT利用に関する一考察」

企画発表2：[司会：金玄珠(国立ハンバツ大)、趙恩英(釜山外大)]

李敬淑(亜洲大) 「生成AIを活用した日本語の学習法と授業実践」

企画発表3：[司会：辛銀真(仁川大)、申義植(京畿大)]

小松麻美(神戸芸術工科大学) 「日本語学習としての創作活動とエクソフォニーの視点」

閉会式

祝辞：金志宣(梨花女大/韓国日語教育学会 会長)

閉会の辞：検校裕朗(極東大/AIとクリエイティブ・ラーニング研究会 会長)

オンライン管理者：飯干和也(祥明大)・諏訪昭宏(釜山外大)・三國喜保子(釜山外大)

## 第3部：研究会会員 交流会



◆運営委員の尹楨勛先生(釜山外大)先生がクリエイティブ・ラーニングに関して、発表を行いました。

韓国日本語文學會 第60回 國際學術大會

日時：2023年10月14日(土)

尹楨勛(釜山外大) 「日本語教育におけるクリエイティブ・ラーニングに関する一考察 — 動画コンテンツの制作とSNSの利用による地域広報を中心として —」

◆本研究会からも参加し、後援した2024年第7回AIと日本語教育国際シンポジウムが台湾で行われました。本研究会からは、運営委員の李朱利愛先生が発表(「日韓通訳教育における自動アノテーションシステムの開発と課題」)を行いました。17本の示唆に富んだAIと日本語教育に関連した学術発表が行われ、新しい学びの多い学術大会でした。



## 2024 年第 7 回 AI と日本語教育国際シンポジウム

-言語生成 AI 技術と日本語教育-

場 所 台湾 淡江大学淡水キャンパス・驚声国際会議場

時 間 2023 年 4 月 13 日 (土曜日)

主 催: 淡江大学村上春樹研究センター

共 催: 国家科学及技術委員会

後 援: 公益財団法人日本台湾交流協会台北事務所・台湾日本語教育学会・AI とクリエイティブ・ラーニング研究会 (AI-CL)

---

◆2024 年 8 月 1 日から 3 日までアメリカのウィスコンシン州立大マディソン校で行われた ICJLE2024 に、検校裕朗会長 (GN 代表者会議にも参加) と運営委員の尹楨勛先生 (釜山外大) が発表参加し、生成 AI に関するワークショップ等にも参加しました。

---

AI とクリエイティブ・ラーニング研究会 AI-CL)

ホームページ: <https://sites.google.com/view/ai-cl2021>

※現在、入会費・年会費無料で入会を受け付けております。AI とクリエイティブ・ラーニング研究会の活動に関心のある方は、上記ホームページより是非ご入会ください。

## 編集委員会

【『日本語学研究』第80輯(2024年6月20日発行)】

◆ 第1次編集委員会(2024. 4. 15. 月 / オンライン会議)

- (1) 80輯(6月20日発行)投稿論文の審査委員選定
- (2) 80輯の編集委員会の日程および今後の計画(案)確認
- (3) 『日本語学研究』第81輯論文投稿案内(投稿締切日2024年6月30日、発行日9月20日)



◆ 第2次編集委員会(2024. 5. 4. 土 / オンライン会議)

- (1) 80輯審査状況確認
- (2) 今後の日程の確認
- (3) 『日本語学研究』第81輯論文投稿案内(投稿締切日2024年6月30日、発行日9月20日)

◆ 第3次編集委員会(2024. 5. 6. 月 / オンライン会議)

- (1) 80輯に投稿された18編の審査結果および掲載について論議
- (2) 投稿論文に対する類似度検査結果の確認
- (3) 論文投稿要領および審査項目の再検討
- (4) 今後の日程の確認
- (5) 『日本語学研究』第81輯論文投稿案内(投稿締切日2024年6月30日、発行日9月20日)

◆ 第4次編集委員会(2024. 5. 28. 火)

- (1) 80輯投稿者修正内容の確認および韓国文化社へ送付
- (2) 英文要旨監修依頼

◆ 第5次編集委員会(2024. 6. 9. 日)

- (1) 80輯1次刊行作業の経過確認
- (2) 80輯1次刊行作業および校正作業

◆ 第6次編集委員会(2024. 6. 16. 日)

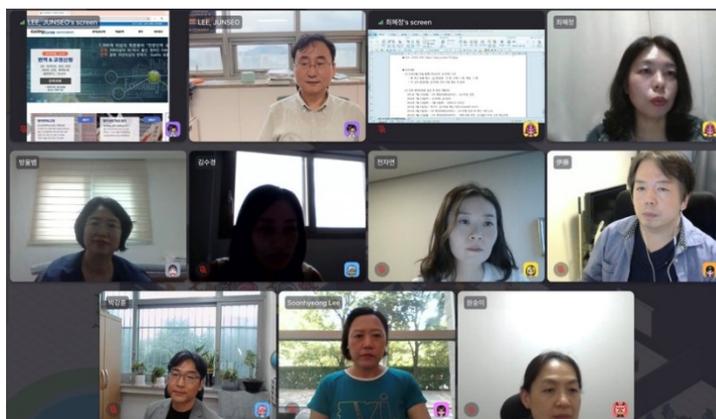
- (1) 80輯最終校正作業
- (2) 80輯印刷依頼
- (3) 編集委員会の今後の日程について点検

『日本語学研究』第80輯発行(2024. 6. 20. 木)

【『日本語学研究』第81輯(2024年9月20日発刊)】

◆ 第1次編集委員会(2024. 7. 22. 月 / オンライン会議)

- (1) 81輯(9月20日発行)投稿論文の審査委員選定
- (2) 81輯の編集委員会の日程および今後の計画(案)確認
- (3) 『日本語学研究』第82輯論文投稿案内(投稿締切日2024年9月30日、発行日2024年12月20日)



◆ 第2次編集委員会(2024. 8. 8. 木 / オンライン会議)

- (1) 81輯審査状況確認
- (2) 今後の日程の確認
- (3) 『日本語学研究』第82輯論文投稿案内(投稿締切日2024年9月30日、発行日2024年12月20日)

◆ 第3次編集委員会(2024. 8. 12. 月 / オンライン会議)

(1) 81輯に投稿された15編の審査結果および掲載について論議

(2) 投稿論文に対する類似度検査結果の確認

(3) 論文投稿要領および審査項目の再検討

(4) 今後の日程の確認

(5) 『日本語学研究』第82輯論文投稿案内(投稿締切日2024年9月30日、発行日2024年12月20日)



# 『日本語学研究』 論文投稿案内

## 『日本語学研究』 投稿規定

### ■ 投稿規定

#### 第1条(学会誌発刊日程)

	論文投稿締切日	学会誌発刊日
第1回発刊	前年度12月31日	3月20日
第2回発刊	3月31日	6月20日
第3回発刊	6月30日	9月20日
第4回発刊	9月30日	12月20日

- ①学会誌は上記の日程で年4回発刊する。
- ②投稿論文は随時受け付け、締め切りは上記のようにする。

#### 第2条(投稿資格)

- ①原則的に本学会の会員に限る。
- ②招請講演者、姉妹学会の会員、編集委員会の推薦による海外からの投稿者は例外とする。
- ③連携協力研究会において発表した論文は、本学会での発表と同一の資格を付与する。

#### 第3条(投稿対象)

一般会員は本学会の学術発表会での口頭発表の有無と関係なく投稿することができる。

#### 第4条(論文内容)

日本語学関連の論文として、既存の国内外の学術誌に発表していない独創的な研究論文でなければならず、本学会の研究倫理規定に従わなければならない。

### 第5条(掲載限度)

一つの学会誌に掲載することができる論文は一人一編に限る。また、同一人物の単独論文は2回以上連続して掲載しないことを原則とする。ただし、招請論文等の場合は例外とする。

### 第6条(分量)

学会で規定した論文作成要領に従い、図及び表を含めて16ページ程度とする。12ページ未満及び20ページ以上の超過は受け付けないことを原則とする。

### 第7条(投稿論文受付)

- ①投稿者は本学会の論文作成要領に従って論文を作成し、学会のオンライン投稿システム(<http://jllak.jams.or.kr>)から提出する。
- ②投稿者は学会のオンライン投稿システムに会員登録する際、必ず本人の身分事項を記載しなければならない。
- ③審査用の論文本文には投稿者と関連する事項を一切記載しない。また、編集委員会の幹事が記入の有無を確認する。

### 第8条(審査)

招請論文を含む全ての投稿論文は審査規定に則り、編集委員会の主管で3人以上の審査委員の審査を経て、掲載の可否を決定する。審査委員の選定は投稿論文の専攻研究分野を考慮し、編集委員会で決定する。但し、3人の審査委員には本学会の編集委員1人又は当分野の専門家が含まれることを原則とする。

### 第9条(審査料及び掲載料)

- ①審査料は1編あたり6万ウォン、掲載料は一般論文の場合は10万ウォン、研究費受託論文の場合は20万ウォンとする。ただし、無発表論文の掲載料は一般論文20万ウォン、研究費受託論文30万ウォンとする。ただし、招請論文は審査料および掲載料を免除する。
- ②学会発表論文として認められる期間は発表日から2年以内とする。
- ③最終的な掲載論文の分量が20ページを超過する場合、1ページごとに1万ウォンを追加で負担する。
- ④審査料は論文投稿締切日までに、掲載料は掲載用原稿の提出締切日までに英語要旨文校正費2万ウォンとともに入金しなければならない。

#### **第10条(校正)**

原稿の校正は投稿者が責任を持ち、論文の編集は編集委員会の方針に従う。

#### **第11条(別刷本)**

原稿料を別途で支払うことなく、学会誌に論文が掲載された投稿者には学会誌2部と別刷本20部を贈呈する。但し、海外発送の場合には別途30,000ウォンの配送料が発生する。

#### **第12条(著作権)**

受け付けた原稿は返還しない。また、投稿論文が学会誌に掲載された場合、該当する論文の著作権は、オンライン・オフラインともに本学会に帰属する。

#### **第13条(その他)**

本規定に明示されていないその他の事項は編集委員会の決定に従う。

#### **<付則>**

- ・この投稿規定は、2015年10月30日から改訂・施行される。
- ・この投稿規定は、2015年12月21日から改訂・施行される。
- ・この投稿規定は、2017年09月01日から改訂・施行される。
- ・この投稿規定は、2018年03月21日から改訂・施行される。
- ・この投稿規定は、2019年01月11日から改訂・施行される。
- ・この投稿規定は、2019年12月06日から改訂・施行される。
- ・この投稿規定は、2020年02月21日から改訂・施行される。

# 『日本語学研究』 投稿要領

## ■ 投稿要領

### 1. 使用言語

論文は韓国語、日本語または英語で作成する。

### 2. 使用環境

原稿はアレアハングルを使用して作成することを原則とし、アレアハングルで入力できない漢字及び記号、図表などは他の紙面で提出する。但し、外国在住などの理由で、アレアハングルを使用できない場合はMSワードを使用して作成する。

### 3. フォント

韓国語は「新明朝」、日本語は「新明朝略字」を原則とする。但し、MSワードの場合、韓国語は「明朝」、日本語は「MS明朝」で作成する。

### 4. 原稿分量

学会で規定した論文作成要領に従って、図及び表を含めて16ページ程度とするが、12ページ未満及び20ページを超過した場合は受け付けないことを原則とする。最終的な掲載論文の分量が20ページを超過する場合、追加掲載料を負担する。

### 5. 論文内容

次の順序に従い、フォント及び体裁は論文作成要領を参考にする。

#### ① 論文題目

② 著者名:著者名には脚注に所属、職位、細部専攻を記入する。(論文作成例 参照) 2人以上の共同論文の場合、第1著者を先頭に書き、必要な場合、脚注で著者の所属及び細部専攻の後に“(第1著者、交信著者)”と明示する。

③ 要旨:要旨(題目含む)は最初のページと最後のページにそれぞれ作成する。論文の最初のページの要旨は300語程度の英語(必須)で作成し、論文の最後のページの要旨は600字程度の分量で英語を除いた論文の本文と異なる言語で作成する。  
(例:論文の言語が日本語の場合は韓国語、論文の言語が韓国語の場合は日本語にする)

④ 研究分野:二つの要旨に投稿論文の研究分野を例に示した分野の中から選択し、明示する。

(例:音声学(Phonetics)、音韻論(Phonology)、統辞論(Syntax)、形態論(Morphology)、意味論(Semantics)、語彙論(Lexicology)、語用論(Pragmatics)、社会言語学(Sociolinguistics)、日本語教育(Japanese Education)、日本語史(Japanese History)、その他の日本語学(Other Japanese Studies))

⑤ キーワード:二つの要旨に論文の内容を含みうる5つ以内の主題語を要旨と同一の言語で提示する。

#### ⑥ 本文

⑦ 注:本文の内容を補充する必要がある場合、脚注を作成する。

⑧ 用例出典:原則的に用例の出典を明らかにする。

⑨ 参考文献:著者名を基準にして韓国語、日本語、英語の順で作成し、書誌情報は著者名、年度、論文または著書名、論文の場合は掲載誌の巻号、発行機関、ページ数の順で漏れなく記載する。同一著者の文献が二つ以上ある場合、年次順に作成し、二つ目の文献からは著者名の代わりに下線を用いる。

例: 김정수(2003) 「한일어 조사대조」 『일본어학연구』 6 한국일본어학회 pp.1-5

\_\_\_\_\_ (2004) 「일본어 대우표현의 특징」 『일본어학연구』 10 한국일본어학회 pp.1-5

高橋太郎(1969) 「すがたともくろみ」 『日本語動詞のアспект』 麦書房 pp.1-5

Rakoff, L. (1973) Language and Women's Place. Language in Society, NY: Harper Colophone Books, pp.1-5

## 6. 図及び表

すべての図は下段中央に、表は上段中央に<図1>、<表1>のように表示し、必ず題目を記入する。

## 7. インターネット資料

インターネット資料を用例出典及び参考文献として利用した場合、URLの後ろに検索年月日を明示する。

(例: <http://www.jlak.or.kr/> (検索日: 2014.3.20))

## 8. 外来語表記

ハングル正書法の外来語表記法に従う。

## ■ 審査料及び、掲載料入金要領

### [要旨発刊費]

■入金期限: 学術発表の発表要旨の投稿締切日(または発表当日)

■金額: 10,000ウォン

### [審査料]

■入金期限: 論文投稿締切日

■金額: 60,000ウォン

### [掲載料]

■入金期限: 掲載用原稿の提出締切日

■英語要旨文校正費: 2万ウォン(投稿者負担)

■金額:

学会発表論文: 一般論文(10万ウォン), 研究費受託論文(20万ウォン)

無発表論文: 一般論文(20万ウォン), 研究費受託論文(30万ウォン)

※但し、最終的な掲載論文の分量が20ページを超過する場合は1ページあたり1万ウォンを追加で負担する。

### [入金口座]

■口座番号: 国民銀行 014301-00-002268 (殷守希<韓国日本語学会>)

※入金時に送金者の氏名及び送金内容を必ず記載すること(例: 山田太郎 審査料)

### [審査及び掲載用論文提出先]

本学会オンライン投稿システム(<http://jlak.jams.or.kr>)から提出する。

## ■ 論文作成要領

論文例示ファイル(ronbunrei.hwp)をダウンロードし、これに作成することを推奨する。

1. 編集用紙の形式は以下の通りである。

■種類：使用者定義, 幅170, 縦240

■余白：上 20, ヘッダー10, 下 10, フッター0, 左 15, 右 15

2. 論文のフォントは韓国語は「新明朝」、日本語は「新明朝略字」を原則とする。但し、MSワードの場合、韓国語は「明朝」、日本語は「MS明朝」で作成する。各部分別のフォントと体裁は次のとおりである。

■論文題目	ポイント 16, 太字, 中央寄せ, 行間隔 160
■副題目	ポイント 12, 中央寄せ, 行間隔 160
■著者名	ポイント 13, 右寄せ, 行間隔 160
■要旨	ポイント 9, 両端揃え, 行間隔 160
■論文分野	ポイント 9, 左寄せ, 行間隔 160
■キーワード	ポイント 9, 左寄せ, 行間隔 160
■大見出し	ポイント 13, 太字, 左寄せ, 行間隔 160
■中見出し	ポイント 11, 左寄せ, 行間隔 160
■小見出し	ポイント 10, 左寄せ, 行間隔 160
■本文	ポイント 9.5, 両端揃え, 行間隔 160, 段落 インデント 10pt
■引用文	ポイント 9, 両端揃え, 行間隔 160, 段落 左余白 30pt (例文など番号がある場合、段落 アウトデント 12pt追加)
■脚注	ポイント 9, 両端揃え, 行間隔 130, 段落 アウトデント 12pt
■参考文献	ポイント 9, 両端揃え, 行間隔 160, 段落 アウトデント 55pt

\* 論文作成例示を参考にすること。

韓国語でお困りの海外外国人研究者のための

## 365 One Stop 論文投稿システム

◎「365 One Stop 論文投稿システム」とは、

韓国語でお困りの海外外国人研究者のみなさまが円滑に論文投稿できるよう、サポートするために考えられた論文投稿システムです。

これまで海外から当学会の学術誌『日本語学研究』に投稿するには、韓国の研究財団が指定する論文投稿システム（JAMS）を通さなければなりませんでしたが、JAMS は韓国語と英語にのみ対応しており、韓国語の分からない海外外国人研究者が韓国語や英語で会員登録などの複雑な手続きを進めていくのは困難な状況にあります。当学会では、このような現状を踏まえて、担当者とのメールを通して円滑に論文投稿できるよう、「海外外国人研究者のための365ワンストップ論文投稿システム」を準備いたしました。

論文投稿をお考えの海外外国人研究者の方は以下のメールアドレスまでお問い合わせください。（韓国語にお困りでない研究者の方は「365 One Stop 論文投稿システム」をご使用いただけません。ご了承のほどお願いいたします。）論文作成例や論文投稿に関する手続きなどのご案内をいたします。

なお、論文投稿時には、英語及び韓国語での要旨が必要となりますが、韓国語への翻訳は承っておりませんので、ご準備をお願いいたします。

その他、ご不明な点やご質問などいつでも承ります。

海外外国人研究者のみなさまのご投稿をお待ちしております。

担当者：伊藤貴雄（編集理事）

メールアドレス：j1ak365onestop@gmail.com

韓国日本語学会第13代編集委員会一同

# 学会ホームページのご案内

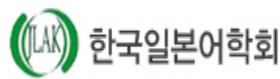
韓国日本語学会ホームページでは、以下のような多様なサービスをご提供しています。

1. 論文投稿
2. 論文審査
3. 『日本語学研究』論文検索およびダウンロード
4. 学術大会関連情報および要旨集ダウンロード
5. その他本学会関連情報



学会ホームページ URL

<http://www.jlak.or.kr/>



ニュースレターでは、会員の皆様の近況及び、お知らせを掲載しています。

記事の掲載をご希望の方は、メール ([jlak123@naver.com](mailto:jlak123@naver.com)) までご連絡ください。

■ 학회사무국	■ 学会事務局
<p>〒(06974) 서울특별시 동작구 흑석로 84 중앙대학교 303 관 1332 호 곽은심 교수 연구실</p> <p>(연구편집 사무국장 : 김지은) (학술사업기획 사무국장 : 이선화) (교육홍보 사무국장 : 나가시마 노리코)</p>	<p>〒06974 Seoul市 銅雀區 黒石路 84 中央大學校 303館 1332號 郭銀心 教授 研究室</p> <p>(研究編集事務局長 : 金知垠) (學術事業企劃事務局長 : 李宣和) (教育広報事務局長 : 長島倫子)</p>
<p>E-mail : <a href="mailto:jlak123@naver.com">jlak123@naver.com</a>      Homepage : <a href="http://www.jlak.or.kr">http://www.jlak.or.kr</a></p>	